

官報報告

宗

立案 大正十年二月十三日

決裁 大正十年 月 日

宗務院總務課長

宮内事務官

大臣

次官

四位勲三等所田重備特旨叙任ノ件

二十五

大正十年二月十三日裁可二月十二日
臺帳記入二月十三日官報報告済

宮内省

(十六)

54

11-4-4

正四位勳三等町田重備特旨叙位ノ件

大旨

大亞

大正十一年二月十三日

内閣總理大臣

内閣總理大臣



大正十一年二月十三日

(八十)



正四位勳三等町田重備特旨叙位ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十一年二月十二日

内閣總理大臣子爵高橋是清



内閣
府
任
第
一
〇
号

内

閣

内閣通位第一〇号

大正十一年二月十二日

大正十一年二月十二日

内閣書記官

内閣總理大臣了

内閣書記官長

正四位勲三等町田重備ハ別紙逋信大臣上奏ノ通功績顯著ナル者ニ候處目下病氣危篤ニ趣ニ付特ニ前功ヲ録シ特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ從三位ニ叙セラルヘキ旨上奏相成可然

正四位勲三等町田重備

特旨ヲ以テ位一級被進

正四位勲三等町田重備

敘從三位

正四位勳三等 町田 重備

右者明治二十一年樞密院ニ出仕以來臨時帝國
議會事務局試補、法制局參事官試補、衆
議院書記官ヲ經テ明治二十八年逓信書記官
ニ任セラレ爾來逓信部内ニ在ルコト十有八年
大正二年六月官制改正ノ際其職ヲ退クニ至ル
此ノ間地方ニ出テテハ京都郵便電信局長、神
戸郵便電信局長或ハ大阪郵便局長トシテ
地方逓信事業董督ノ任ニ膺リ事業ノ整

備改善、盡瘁シ後中央ニ入ル、及シテハ逓信省
管理局長、要職ヲ占ムルコト約六年其ノ間
當省經理事務、鞅掌シ逓信事業力急劇
ニ膨脹ヲ為サントシタル際、於テ畫策宜キ
ヲ得事業ノ圓滿健實ナル發達ヲ遂ケシメ
タル功績設スヘカラサルモアリ又明治三十六年
英國倫敦ニ於テ開催セラレタル萬國電信
會議ニ我帝國委員トシテ參列仰付ラレ
國際通信ニ関スル高議ニ參加シ帝國ノ
利益ヲ主張シ免ク其使命ヲ完フセリ

談會議終了後、欧米各國へ出張ヲ命セラレ
各國、於ケル通信事業ヲ仔細ニ調査シ以テ
彼地ニ於ケル新制度ヲ我國ニ採用セシメ
斯業ニ貢獻シタルコト尠クナリトセス當時我國
ニ於ケル通信事業ハ幾多ノ改善ヲ加ヘ一大
革新ヲ要スルノ際ニシテ同人ノ努力ハ克ク斯
業今日、隆盛ヲ齎シタル由因ヲ為スモノト
謂フヲ得ヘシ又大正四年七月錦鶏間祇候
被仰付今日、及ニ尚風ニ日佛協會ノ要
路ニ當リ日佛親善ニ努メ佛國政府ヨリ

通信省

大正八年「シエウアリエー、ド、ナシヨナル、ド、ラ、レジラン
ド、ヌール」勲章ヲ贈與セラレ今次「ジヨッフル元帥
来朝ノ際特ニ「ラ、クア、ド、シエウアリエー、ド、テ、アール、
ノアール」勲章ヲ贈ラレ又次洲大戦ニ際シ日
自親善ニ関シ貢獻スル所尠カラス就中
白國罹災民救恤事業ニ関シ功勞大ナル
事ヲ以テ大正九年二月同國皇帝陛下ヨリ
「グラン、ヲヒシエー、ド、ロルドルド、レオポール」二世勲章ヲ
贈與セラレタリ然ルニ頃日來疾病ニ罹リ危篤ニ
陥リ候ニ付テハ此際特旨ヲ以テ位一級ヲ進メ

ラレ度
謹テ奏ス

大正十一年二月十二日

逓信大臣野田卯



逓信省

逓信省印

官秘甲 四九〇 號

大正十一年二月十二日

逋信大臣野田卯



内閣總理大臣子爵高橋是清殿

別紙所田重備特旨進位之件
上奏書進達

逋信省

逋信省

立案大正十年二月十二日

決裁大正 年 月 日

保林院藏

案

案

特旨ヲ以テ位一級被進

正四位勲三等町田重備

正四位勲三等所田重備

紋 従三位

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記竝辭令ハ追テ可及回送候也

大正十年二月十二日

宗秩寮總裁事務取扱



遊信大臣



一 片 氏 任 意 乙 等 田 全 備

右位記竝辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

大正 十 年 二 月 十 七 日

家 務 總 務 長 官 倉 富 三 郎

馬 之 任 意 乙 等

宮 内 省

裏 面 白 紙